

2020年3月11日

岡山理科大学

一部報道について

一部報道で本学の獣医学科に関する推薦入試A方式の実施方法と合否判定について、あたかも不正があるかのような記事が掲載されました。本学は入試を適正に実施しており、記事は事実とは全く異なります。

入試の実施方法

獣医学科の推薦入試A方式では、出身高等学校の調査書(50点満点)、基礎的な試問(80分で2科目<獣医学科は数学必須で、英語もしくは理科の物理・化学・生物のうち1科目を選択>=各50点)、面接試験が50点の計200点満点で判定しています。

面接試験は1人15分間。面接官32人が2人1組の16班編成で、1班につき4～5名の受験生に対して実施しました。内容は志望動機や獣医師に関する知識、コミュニケーション能力などを問うもので、A～Eの5段階で総合評価しており、A、B、C、D、Eとなっており、Eは0点となります。面接は日本語能力だけを問うものではなく、獣医学科での学習に必要な基礎的な知識なども含めて総合的に判定しています。面接試験の評価項目のうち1項目でもE判定がつけば総合評価もE判定となります。

入試の合否判定

本年度の推薦入試A方式では、韓国人受験者は志願者数が8名で、うち1名が欠席したため受験者は7名でした。面接試験では韓国人受験者7名全員がE判定でしたが、外国人のみならず日本人も含めて、全受験者の4分の1程度がE判定とされています。

なお、韓国人の推薦入試A方式受験者のうち不合格だった2名は、一般入試前期で合格しています。加えて韓国人の獣医学科合格者は一般入試前期で1名、留学生入試(試験は日本留学試験の点数と面接試験で行われます。)で1名、併せて4名となっており、面接を伴う留学生入試でも合格者がいることに照らせば「国籍差別」していないことはご理解いただけると思います。現在、獣医学科に在籍する外国人留学生は韓国13名、台湾2名となっています。

以上のように、本学の入試は実施方法及び合否判定においても何ら問題なく適正に実施しております。

以 上